

One time, One meeting

三菱商事が1989年に買収したイギリスの老舗食品・飲料メーカーに出向する末松一仁さん。経営改革や新しい挑戦に励む彼が考える、新しい価値とは？



From
三菱商事
Princes Limited
取締役
末松一仁

「誇り」と「使命感」を胸に、 あらゆる家族の食を支えたい

【監修】 **GLOBE+**
The Asahi Shimbun

Princes社(以下、プリンセス)は140年の歴史とブランド力をもとに欧州で食品飲料事業を展開するメーカーです。私は2016年に三菱商事から出向後、2018年より取締役役に就任しました。

プリンセスは三菱商事グループとなった1989年以降、順調に業容を拡大してきました。しかし2015年頃よりその規模ゆえに機動性を失い、変化する消費者ニーズへの対応が後手にまわり、業績にも陰りが見え始め、私が着任した頃から消費者ニーズへの対応力を向上させるべくビジネスモデルの変革をスタートしました。

組織の刷新や工場の統廃合など経営の健全化を進めるも、社員の不安は日に日に強くなっているように感じました。そこで社員が自信と誇りを取り戻して働ける施策を検討していく中で、三菱商事の企業理念「三綱領」の精神が社員の心をつなげるよりどころになっていることに気づきました。事業を通じて豊かな社会の実現に寄与するという、一見当たり前ですが大切なこの理念に立ち返り、社内で新しいビジョン

の策定に着手。多くの社員と共にプリンセスが目指す姿について議論を重ね、新ビジョン“Proudly helping families to eat well without costing the earth”、すなわち社員が誇りを持って「健康でおいしい食の提供」と「環境・社会的価値へコミット」する会社になることを掲げました。「プリンセスの存在意義とは？」という根源的な課題を、社員一人ひとりが自分事として深く考え、議論を深めることができたのは私にとって大きな喜びでした。

イギリスは2020年3月、新型コロナウイルスの影響でロックダウンに入り、最低限の日用品しか買いに行けない日々が続きました。サプライチェーンの混乱、欠員数の増加や工場でのソーシャルディスタンスの導入など、プリンセスも大きな影響を受けました。しかし、ロックダウン中の各家庭のニーズに応えたい、いまこそ供給を止めないのだと、社員一人ひとりが人々の大切な食を支えていることに使命を感じ、「社会に貢献



新コーポレートビジョン策定時の取締役会にて

する」という強い思いで取り組んでいます。また、医療従事者やフードバンクへの寄付、感染リスクの高い方への生活必需品無償送付など、食品メーカーならではの支援活動にも取り組んでいます。コロナ禍で、社員のこのような使命感を改めて目の当たりにし、プリンセスで働くことに自信と誇りを取り戻していることを強く実感できました。

私はプリンセスに着任する前にもいくつかの会社に出向し、様々な国や業界に携わらせてもらいました。こうした経験から、事業を通じて、社会課題の解決策を提案することができる、その輪が様々な国や業界で広がれば大きな力になると考えるようになりました。今はプリンセス社内で輪を広げているところですが、これからも社会のために当たり前正しいことを続けるという同じ理念を持つ仲間と共に、「経済・社会・環境の三価値同時実現」に向けて変化を成長につなげることを実現していきたいと思えます。

コロナ禍でも食卓を守るプリンセスの挑戦



プリンセスは、コロナ禍でのロックダウン中でも、従業員の安全面を考慮しながら操業し、商品の欠品を防いだ。さらに、イギリス政府主導の生活必需品無償送付プログラムへの商品提供、フードバンクや病院への寄付など、非常事態でも食卓を守る挑戦を続けている。オンライン購入が当たり前となるポストコロナの世界をにらみ、この危機を未来のチャンスに変える新しい挑戦も始まっている。

「One time, One meeting」の
オリジナル記事は
GLOBE+でご覧頂けます。



<https://globe.asahi.com/brand/mitsubishicorp/2020>